

20111022 現代政治戦略研究会議事録

「実践的なまちづくり手法の確立へ向けて ～政策立案プラットフォームの確立へ～」

日 時：2011年10月22日（土）15:00-17:50

場 所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

テーマ：「実践的なまちづくり手法の確立へ向けて

～政策立案プラットフォームの確立へ～」

発表者：細川甚孝氏（公共経営コンサルタント）

参加者：参加者 18人（発表者除く）

（財務コンサルタント、経営コンサルタント、会社経営者、会社員、マスコミ、ライター、公務員、地方議員、NPO法人理事長、行政書士・司法書士など）



会長から開会挨拶、戦略研・政治研の趣旨、今回ミーティングの趣旨  
→資料「戦略研概要」

- 目次
1. そもそも、まちづくりとは
  2. まちづくりの類型
  3. まちづくりってうまく行っているの？
  4. 政策立案プラットフォームの必要性

## サマリー

### 1. そもそも、まちづくりとは

- ・まちづくりの定義は人それぞれになっています。
  - ・課題によって、どういう人を巻き込むかで、まちづくりの中身は変化します。
  - ・まちづくりの経緯・沿革について。始まりは、70年代の反公害闘争。現在は、市民、ボランティア、社会起業家、専門家が参加するようになってきています。
  - ・まちづくりの主な財源は、行政からとなっています。
  - ・あえて、まちづくりを定義すると、「課題意識のある領域から始まり、その他領域を巻き込む動きを指すもの」とすることができます。
  - ・まちづくりの最近の状況は、メディアに出るのは、成功している事例のみです。多くのところが失敗、あるいは継続していません。
- 行政が「〇〇計画」を作りはしますが、アウトカムに対して行政は責任をとっていません。また、行政のお金が切れると、とたんに持続不可能となっています。
- まちづくりの人・物・金・情報の連携ができていません。
- そして、まちづくりのための調査をしてそれでおしまいということもあります。

### 2. まちづくりの類型

- ・まちづくりの4つのパターンとして、課題解決につき「様々主体」か「単独の行政」かという軸と民（NPO／企業）とのつながりの強弱という軸にて、「多様な主体モデル」、「自治体内まちづくりモデル」、「広域行政モデル」、「行政単独モデル」があります。
- ・現状としては、「行政単独モデル」がメインになっています。
- ・ただし、「行政単独モデル」から「多様な主体モデル」への流れが起きています。

### 3. まちづくりってうまく行っているの？

- ・政策面の課題。条例・計画は作ったものの課題は解決していません。作る時は頑張るけど、作りっぱなし。調査をしても、それをもとに政策が作られていません。そもそも、評価指標を作っていないので成功したのかがわかりません。
- ・運動の課題。活動する人はいつも一緒になっています。まちづくりの既得権益化が進みます。
- ・政策・運動両方の課題。基本的に行政が財政難のため、専門的な知識は導入が難しくなっています。NPOは行政の下請け化してしまっています。
- ・まちづくり市場の動き。行政の財政難、人材難、ダンピングのおかげで、粗製乱造、

金太郎飴現象が多発しています。

#### 4. 政策立案プラットフォームの必要性

- ・上記を踏まえると、あたらしいまちづくりを考える「場」＝「政策立案プラットフォーム」の形成が必要です。
  - ・政策立案プラットフォームでは、「担い手の政策力アップ」、「首長との対抗関係において、より良い提案（対案）を出す住民代表のサポート（判断アクター、プレゼンテーター、メッセンジャー）」、「地域とのネットワークの強化と円滑な政策サイクルの構築」、「対案作成のための独自の調査（行政だけの情報での政策立案・実行になっってしまうように）」を行います。
  - ・議員、NPO、各種企業、市民、自治体の協働により、政策立案プラットフォームを実現します。
  - ・現在、外部政策市場が新しいビジネスとして始動しています。現状のシンクタンクとの違いは、コミュニケーションや人材育成へのフォーカスがなされ、政治案件へのトライが行われていることです。
- まとめとして、行政計画は、まちのあるべき姿にかかわる重要なものです。しかし、現在、ここが疎かににされています。この現状を変え、日本の民主主義の基礎を変容させていきたいです。

以上